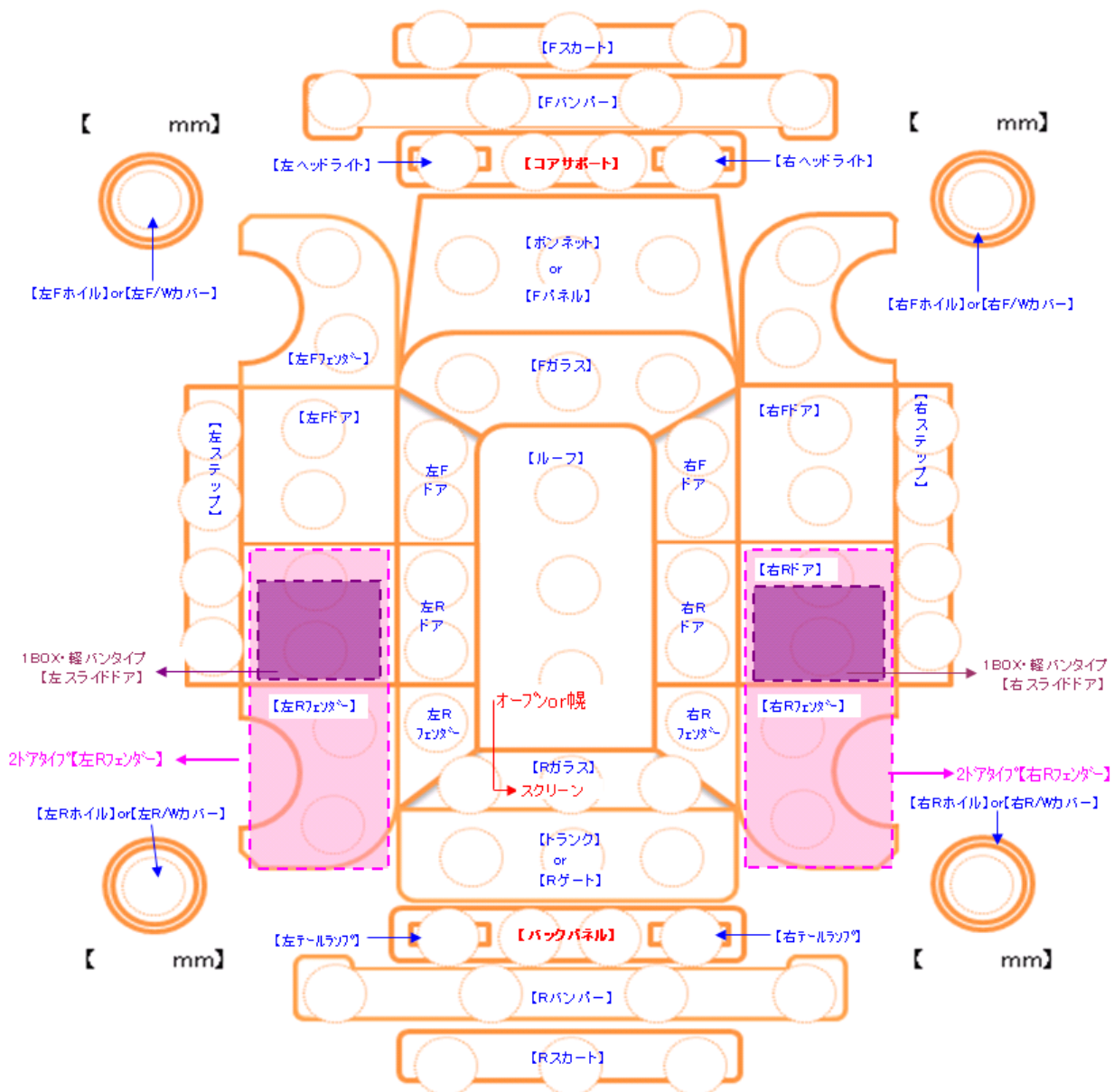


店舗在庫出品車両 検査マニュアル(乗用/商用バン)

はじめに

1. 出品者は、出品車両の仕様、品質、不具合、欠陥の程度等車両の状態を誠実・正確に申告しなければなりません。また、申告内容につきましては出品者が全責任を負うものとし、当社の裁定に従わなければなりません。
2. クレーム等が発生した場合の解決にあたっては、出品者、落札者双方とも店舗在庫規約及びアライAA規約に基づき、前向きな理解と協力によることを第一とします。

展開図部位呼称(乗用車/商用バン)



ダメージ記号及びダメージポイント組合せによる程度、範囲解説

1. 現車をよく確認し、ダメージがある箇所については下表の瑕疵記号を入力して下さい。
2. 同じ箇所に異なる瑕疵が複数ある場合は、目立つものや程度の悪い方を優先して下さい。

瑕疵	記号	範囲, 程度
線傷	A1	ゴルフボール大程度
	A2	手のひら範囲内 (A1程度が複数ある場合)
	A3	サッカーボール大程度 (A2程度が複数ある場合)
	A大	「3」を超える場合
	A多	複数個所に及ぶ場合
凹み・窪み	U1	ゴルフボール大程度の凹み・窪み
	U2	テニスボール大程度の目立つ凹み・窪み
	U3	サッカーボール大程度の大きな凹み・窪み
	U大	「3」を超える場合
	U多	複数個所に及ぶ場合
他の瑕疵を伴う凹み	B1	ゴルフボール大程度
	B2	手のひら範囲内 (B1程度が複数ある場合)
	B3	サッカーボール大程度 (B2程度が複数ある場合)
	B大	「3」を超える場合
	B多	複数個所に及ぶ場合
錆	S1	ゴルフボール大程度の錆
	S2	テニスボール大程度の目立つ錆
	S3	サッカーボール大程度の大きな錆
	S大	「3」を超える場合
	S多	複数個所に及ぶ場合
腐食	C1	500円玉程度の腐食
	C2	テニスボール大程度の腐食
	C3	サッカーボール大程度の腐食
	C大	「3」を超える場合
	C多	複数個所に及ぶ場合
切れ	T1	ゴルフボール大程度の切れ
	T2	テニスボール大程度の目立つ切れ
	T3	サッカーボール大程度の大きな切れ
	T大	「3」を超える場合
	T多	複数個所に及ぶ場合
割れ	D1	500円玉程度の割れ
	D2	テニスボール大程度の割れ
	D3	サッカーボール大程度の割れ
	D大	「3」を超える場合
	D多	複数個所に及ぶ場合
ペイント	P1	ゴルフボール大程度
	P2	手のひら範囲内 (P1程度が複数ある場合)
	P3	サッカーボール大程度 (P2程度が複数ある場合)
	P多	複数個所に及ぶ場合
補修跡・塗装跡	W1	すかして見て確認できる補修跡・塗装跡、補修波小・塗装波小
	W2	容易に確認できる補修跡・塗装跡、補修波中・塗装波中
	W3	全体的で再加修の必要な補修跡・塗装跡
変色・色褪せ	H1	対象部位全体の3分の1程度範囲
	H2	対象部位全体の3分の2程度範囲
	H3	対象部位全体に及ぶ場合
塗装剥げ	F1	対象部位全体の3分の1程度範囲
	F2	対象部位全体の3分の2程度範囲
	F3	対象部位全体に及ぶ場合
ずれ	L	
押され	O	
要交換	X1	部分的交換要する(分割タイプで一部のみ)
	X2	部分的交換要する(分割タイプで両サイド)
	X3	要交換(ヘコミ大、10cm以上の亀裂等)
交換済み	XX	
事故現状	R	

1. 車両装備(車内装備品)関連の確認について

- (1) まずは車両に乗り込み、車内全体を見廻し、汚れや破損、損傷等を確認して下さい。
- (2) 次に、車両に装備された装置等の作動確認を行うとともに、不具合等がある装備等については必ず、申告して下さい。

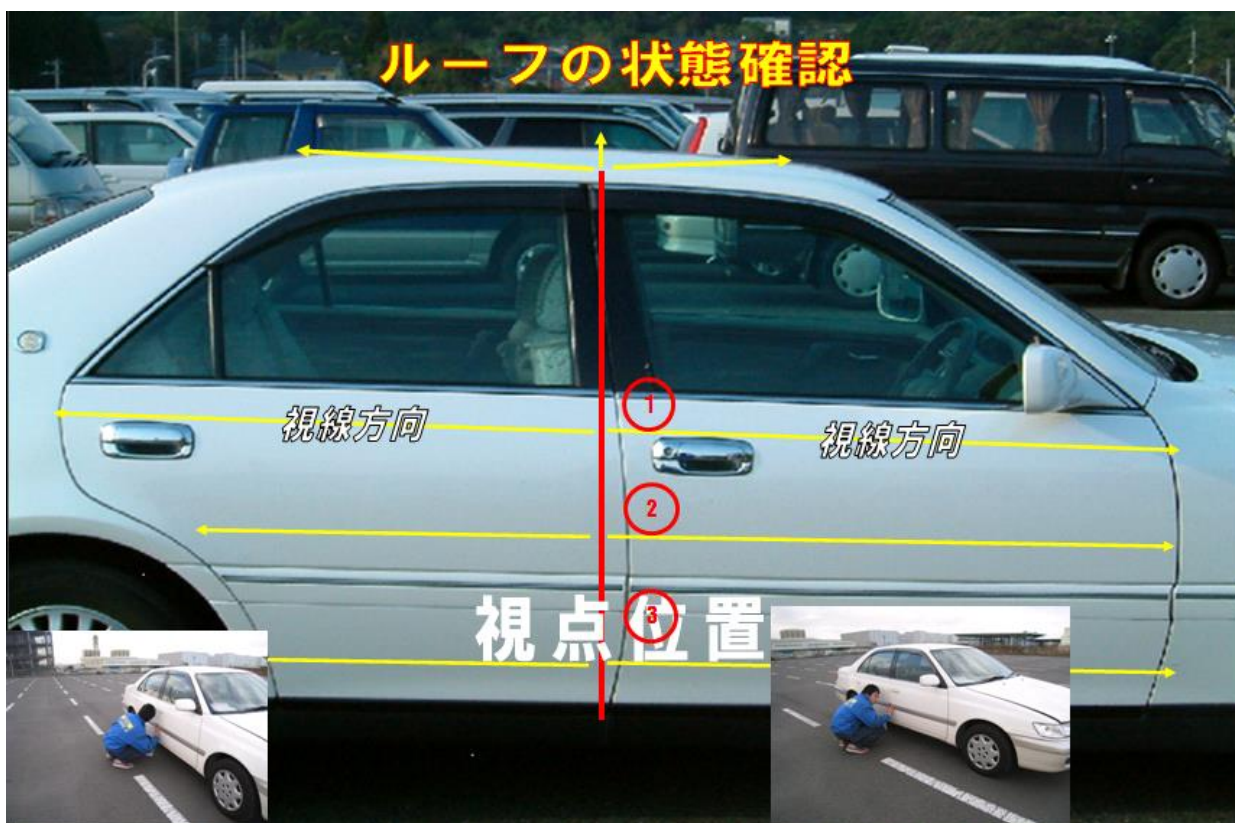
注【革シート】について

- ① シート地の材質が、本革であれば『本革シート』として扱います。
- ② シート地が、合成皮革(レザー地)の場合は『革シート』として扱います。
- ③ シート地が、一部合成皮革(レザー地)の場合は『ハーフレザーシート』として扱います。

2. 外装を含めた車両の状態確認について (参照)

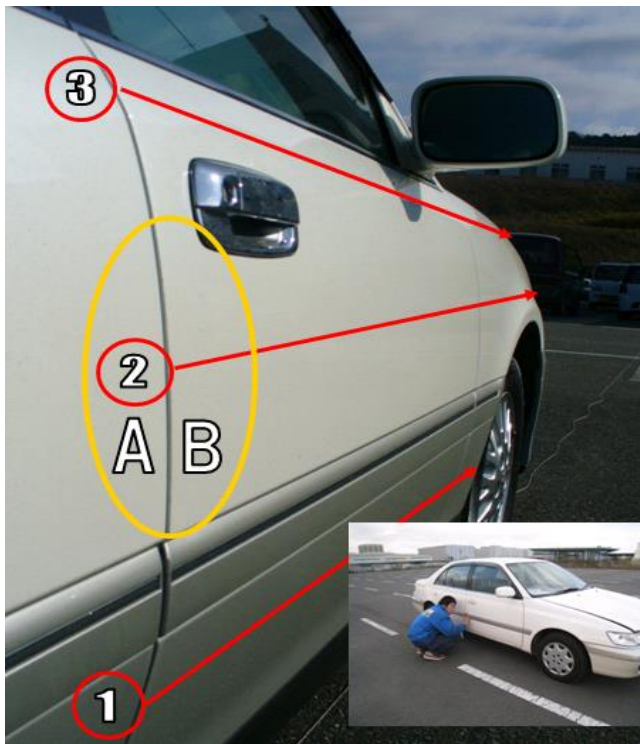
2.-(1)運転席側

まずは、下記参照資料1を参考にし、車両の運転席側より状態を確認して下さい。



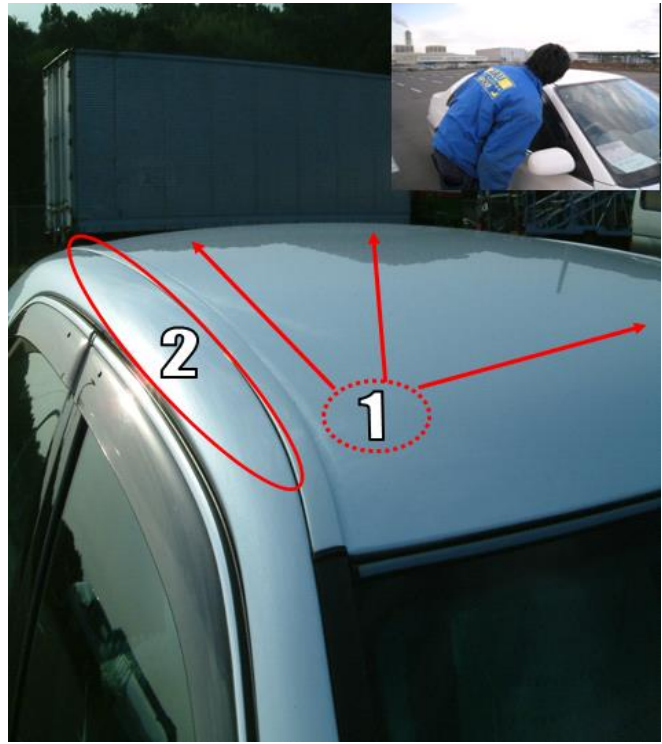
【参照資料1】

- ①ルーフの状態確認から参照資料1中の赤線で表記した「視点位置」を中心に①②③の順番で左右に表面をすかしながら外装のチェックします。



【参照資料2】

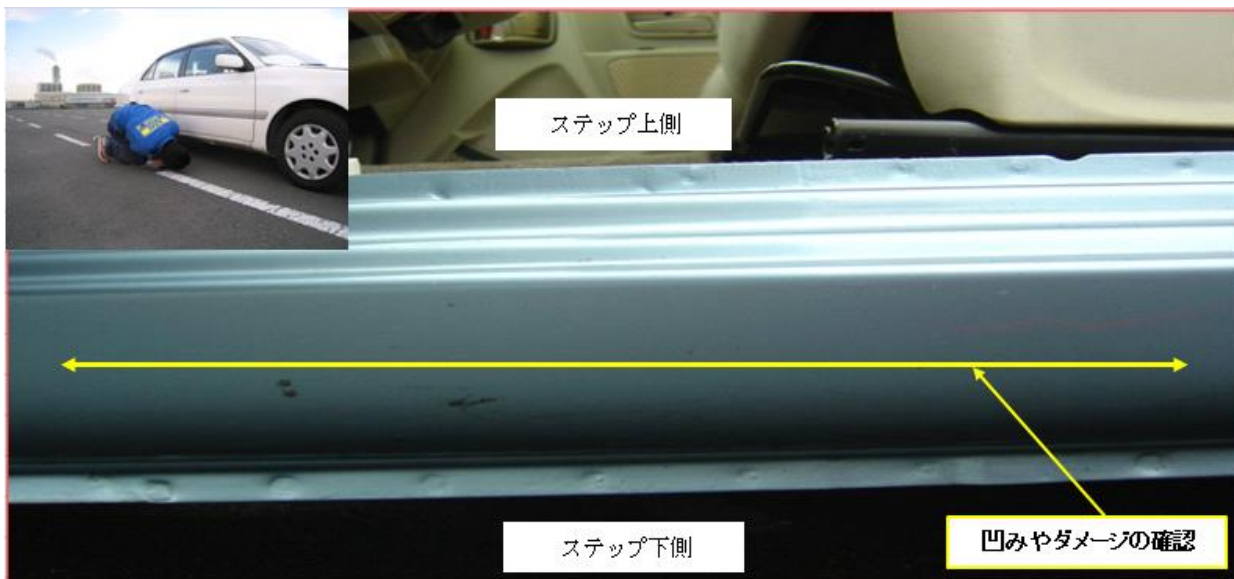
上の参照資料2①、②、③の順にボディの傷や凹みを再度チェックします。
ここでは、フロントドアからフロントフェンダーにかけてのチェックと、特に①の部分は見逃し易い部分なので注意が必要です。またAとBの塗装の表面(肌具合)を比べ板金塗装の有無を判断します。



【参照資料3】

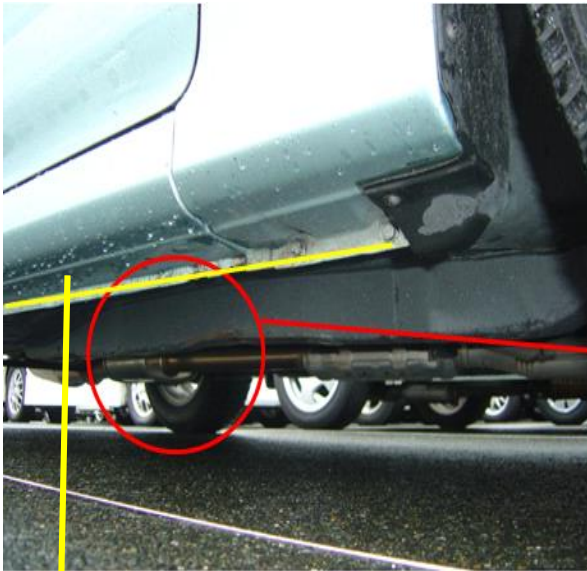
上の参照資料3、①の矢印三方向にそれぞれ視線をやり、ルーフの凹み、傷等を透かし見ながら確認します。
②ではルーフピラーのチェックですが、この部位は立ち位置視線から非常に近い位置にあるため、見逃し易いので注意が必要です。

②次に、下記参照資料4を参考に、ステップの傷や凹みをチェックするとともに、車両の下を覗き込み下廻りの確認をして下さい。



【参照資料4】

2.-(2)運転席側下廻りの確認



【参照資料5】



【参照資料6】

- ①上の参照資料5、黄色い線の部分で、ステップのミミと呼ばれる部分に修正機(クランプ)がある場合は、基本的にはその車両が修復の可能性が非常に強いということになるので注意が必要です。
- ②参照資料6の赤丸印で囲んだ部分、車両のフロアメンバーであるが、何かの原因でメンバーに大きなダメージが入っているが、そのダメージについて、著しく大きな場合や、切れている場合、車両は修復車両扱いになってしまうので、注意深く確認して下さい。

2.-(3)ドアの確認



【参照資料5】



(正常なシーラー) 正規



(後入れシーラー) 交換

【参照資料6】

【参照資料7】

- ①上参照資料5の赤印で囲む部分、ドアのシーラーの状態をチェックします。
- ②参照資料の6・7の様にある様に、シーラーが正常なのか、それとも後から手が加えられているのかを判断します。

2.-(4)車両のピラー関連



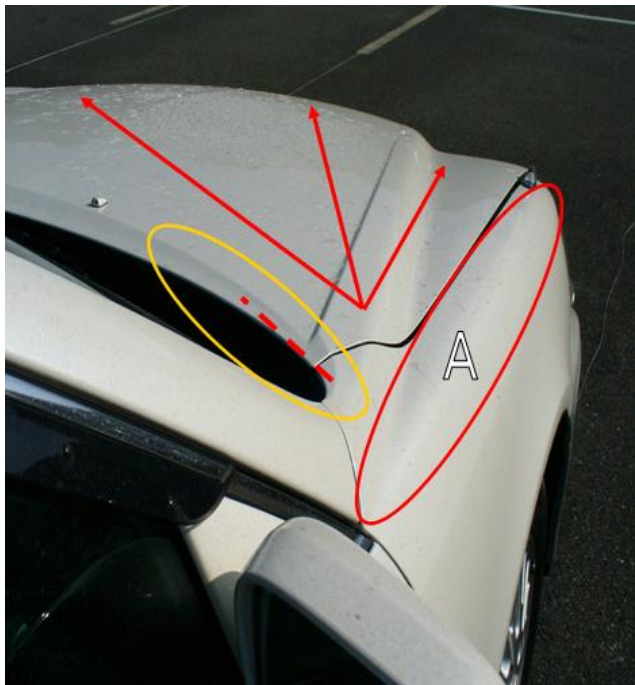
【参照資料8】



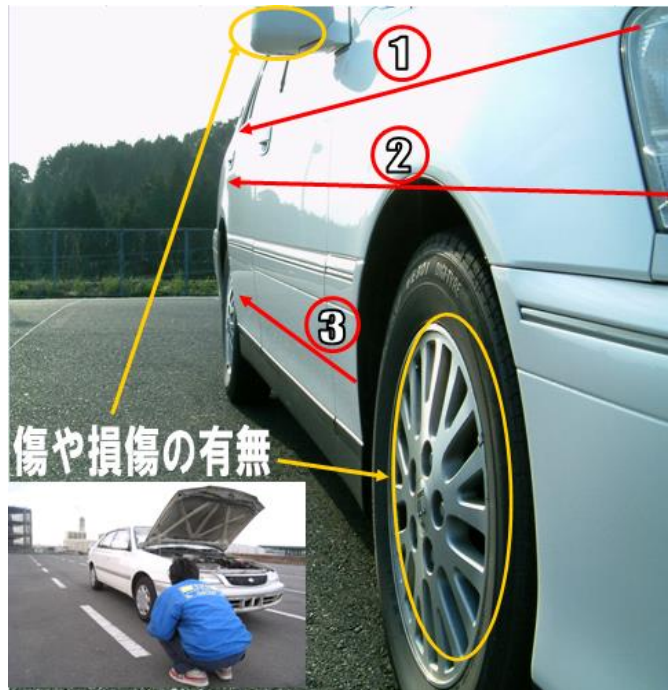
ドア・ステップ等の修理跡（交換・板金修理）があった場合にはピラーにダメージが及ぶ可能性が高いので必ず状態の確認を行う事

- ①参照資料8、青印で囲む部分、この位置でフロントフェンダーの取り付けボルトの状態（傷、汚れ、ペイント）を必ず確認します。
- ②ボルトに触り傷等がある場合、フロントフェンダーを何らかの理由で調整、板金、もしくは交換している可能性があります。またボルト廻りのフェンダーの下地の色にも注意が必要です。

2.-(5)車両フロント方向



【参照資料9】

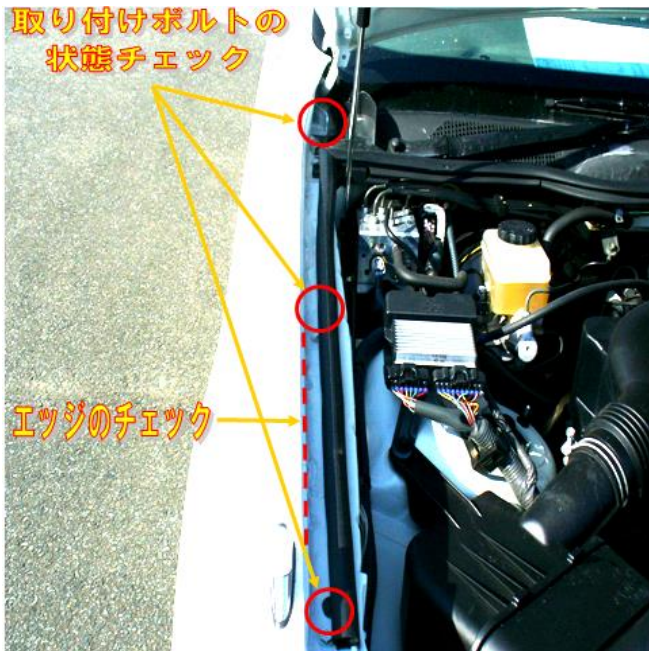


【参照資料10】

上の参照資料9、フロントフェンダーのA部分および、ボンネットの矢印方向へ視線をおくります。
 (※A部分は確認の段階で死角になり易いため、特に注意が必要です。)
 黄色い円の赤い点線部分(フェンダーとボンネットのエッジ部分)を前方へ移動する際に指先で触り塗装のザラツキを確認します(塗装の有無)。この時、ザラつく感じがした場合、ボンネットの塗装が疑われる為、車両のフロント廻りを入念に確認する必要があります。

上の参照資料10のように、前方方向に移動しフロントバンパーの右角に腰を落とし、もう一度①、②、③の順で車両の前方から後方にかけて視線を送り、外装の傷や特に、凹みを再度確認します。この時、ドアミラーの傷やアルミホイールの傷、特にリムのガジリ、割れやセンターキャップの有無等に気をつけてチェックをしましょう。

2.-(6)フェンダー・ボンネットの確認



フェンダーの確認を行う作業



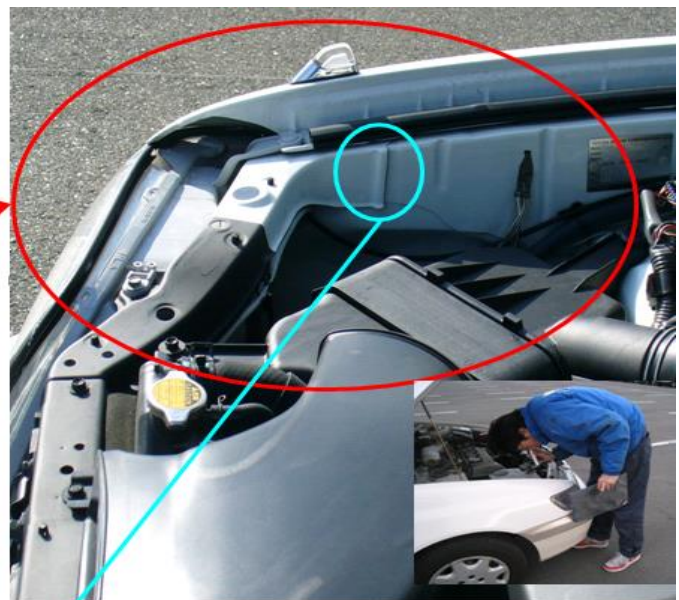
ボンネットの確認

ボルトのチェック⇒ ボルトに傷がある場合 ⇒ 板金、交換の可能性有り
 エッジのチェック⇒ ザラツキ、マスキング跡 ⇒ 板金、交換の可能性有り
 ボルトの触り跡(傷等)⇒ 板金、交換
 シーラーの確認 ⇒ 裏地の色確認、交換の有無
 ※板金、交換等があれば必然的にフロント廻りが怪しく思われます。(修復歴が濃厚)

2.-(7)車両フロントの確認



【参照資料11】



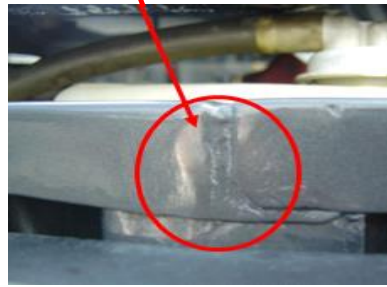
【参照資料12】

- ①コアサポートの確認を行う際は、必ず参照資料12の青丸印で囲む部分等の溶接(スポット)確認します。
- ②参照資料12の青丸印で囲む部分は、アッパーサポートとインサイドパネルを接合する部分であり、この時のスポット溶接の確認を行います(メーカー純正なのかそれとも後入れなのか)。
- ③溶接が違う場合はコアサポートUPもしくはコアサポートを修正もしくは交換している可能性が非常に高いです。



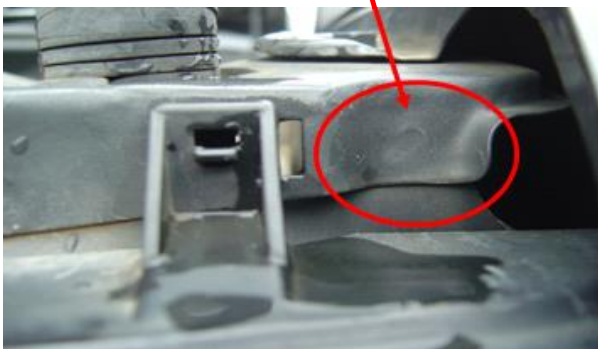
丸印1でコアサポートUPパネルとインサイドパネルをつなぐ溶接スポット溶接を確認します。拡大図でわかる様に純正のスポット溶接でなく後から入れられた溶接です。

丸印2ではシーラーが純正ではなく後から入れられたシーラーです。



上写真の1である溶接と比較すると違いが明らかであり、1の溶接が後から修理入替えられた溶接(スポット溶接)です。

メーカーからの純正スポット



フェンダーやボンネットのチェックで異常を見つけるとフロント廻りが怪しく思われるが最近の車はエンジン廻りにカバー類が多くなかなか見え難いです。そこで左図のようにバンパー横のフェンダーライナーを剥ぎ奥をのぞくと右図のようにサポートとインサイドパネルの様子が分かります。



2.-(8)助手席側

① 助手席側での確認については、前項で説明しております運転席側での確認同様となります。

2.-(9)リアフェンダー、リア廻りの確認について

【参照資料13】

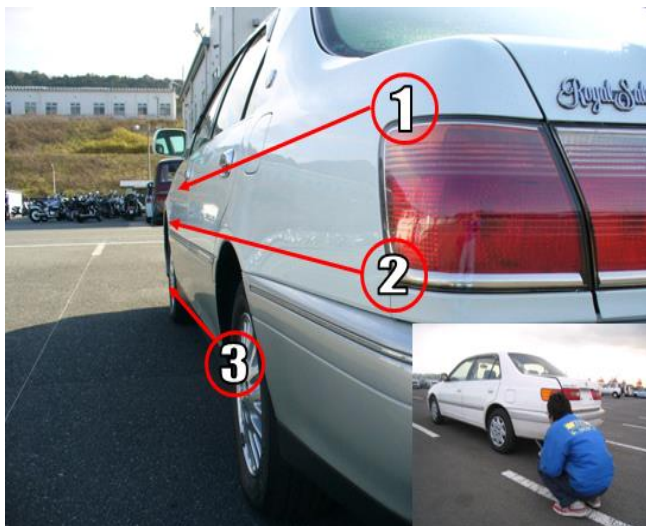


ステップの下側のスポット溶接を確認します。

ウエザーモールを剥いで、スポット溶接の確認します。

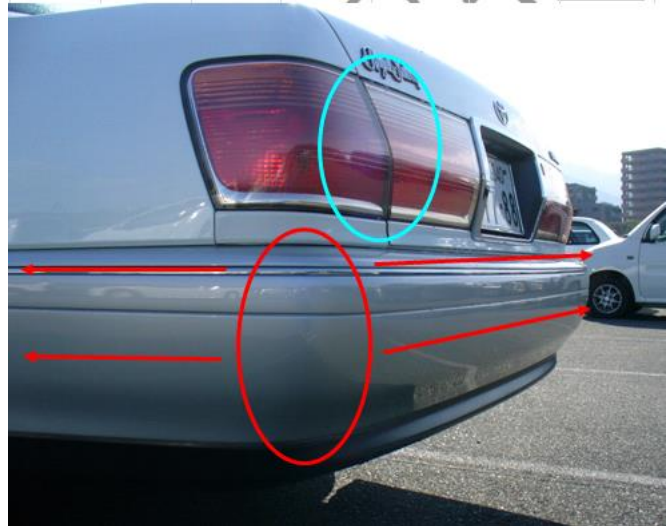
フェンダーアーチ部のスポット溶接の確認します。

- ①上の参照資料13、緑線の部分(エッジ)を目視、指先等で確認をし、板金塗装の有無を確認します。
- ②塗装の痕跡等があれば、再度、上記の3カ所の溶接を確認します。
- ③上の参照資料13、黄色印Aの部分に錆、腐食等が出ている場合も、Rフェンダーの交換がされている可能性がありますので注意深く確認をしましょう。



【参照資料14】

上の参照資料14で表す様に、①、②、③の順で車両の後方より前方方向へ透かし見をし外装のチェックを行います。浪打がある部分は、板金塗装をしている可能性がありますので、再度浪打がある部分の塗装面を確認する必要があります。またホイールのチェックも同時に行います。



【参照資料15】

上の参照資料15、赤印部分、円の部分を中心に左右に視線を送り、バンパーの、傷、打痕の有無を確認します。また同時に青丸で囲むテールレンズでリアフェンダーとトランクの出入り具合を確認します。トランク側のレンズよりリアフェンダー側のレンズが入り込んでいる場合はバックパネルが歪んでいる可能性が非常に高いので注意が必要です。



トランクを開いた状態でトランクルーム内に頭を入れ、左写真の丸印の部分を下側より上部を見上げ、Rフェンダーの接合部(スポット溶接)の状態を確認する作業をします。



上記写真の丸印の部分のように、トランク内のカバーを剥ぎテールレンズ廻りやRフェンダーの裏側の状態を確認します。



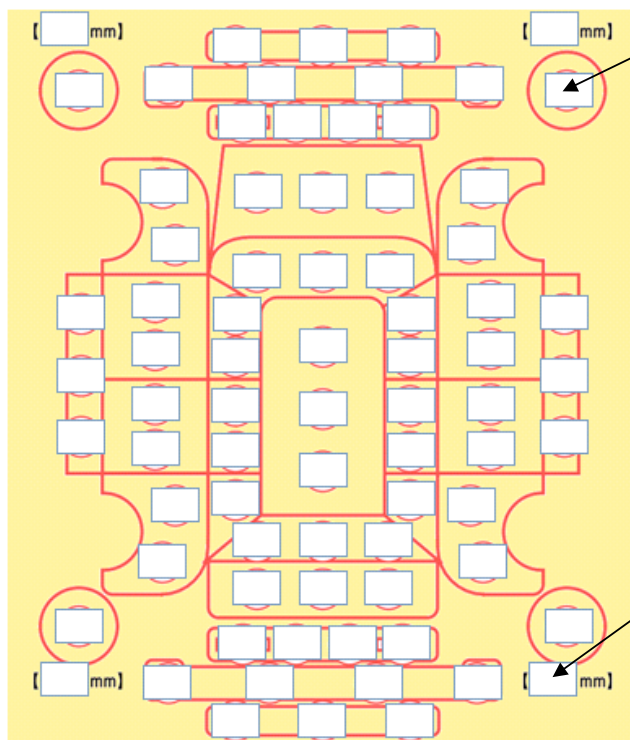
テールレンズ廻りの確認をする際、特にバックパネルとRフェンダーの接合部分(スポット溶接)の確認を行います。



上写真のAの部分(矢印の位置(バンパーの裏を下から上へ)から見上げバックパネルとリアフロアの継ぎ目のシーラーの状態とスポット溶接の状態をチェックします。
上写真のBの部分(矢印の位置)と同様にチェックし、再度Rフェンダーのチェックを行なうと共に、リアフロアのサイドハウスの突き上げによる凹みやリアフェンダーインナー、サイドハウスイナーのパネルの状態のチェックを行います。Cも同様です。

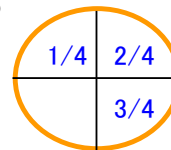
最後に、車両から少し離れた位置で、車両の外装および、外観の雰囲気等を全体的に再度確認する

3. アルミW(アルミホイール)、Wカバー(ホイールカバー)等のダメージ記載



●【アルミW(アルミホイール)、Wカバー(ホイールカバー)】

- (1)傷や割れ等の程度を表記する
- (2)使用する検査記号は「A or D」
- (3)ダメージの目安



全体を4分割し、ダメージの範囲がどの程度(範囲)にある確認して記載をする。

【記載例】

- ・全体の1/4範囲内 → 「A1」 or 「D1」記載
- ・全体の2/4範囲内 → 「A2」 or 「D2」記載
- ・全体の3/4範囲内 → 「A3」 or 「D3」記載
- ・全体にある場合 → 「A多」 or 「D多」記載

●【タイヤ溝について】

- (1)タイヤ溝については、専用ゲージを使用し測定する
- (2)測定した数値については、小数点以下切り捨てとする
- (3)測定をする際は、トレッド表面の一番磨耗している箇所を測定し記入します。